

第 I 部

教職を目指す学生へ

教員採用試験合格者の経験を聞く

人として成長できる教師を目指して

安藤 葉生人（文学部地理学科4年）

今回、東京都中高地歴科の教員採用試験を受験し、合格をいただくことができました。合格者の体験談に登壇するにあたって自分が話したいことを大まかにまとめてきました。来年度以降、教員採用試験を受けるみなさんに少しでも参考になれば良いなと思っています。

1 教員を目指すにあたって決めていたこと

私は、教員を目指すうえで「人として成長する機会にすること」を心がけるようにしていました。これから夢に向かって羽ばたいていく高校生の背中を応援できる教員になりたいと考えていた私は、学校外の世界も知っておく必要があると感じたのと同時に、教師以前に人として成長する必要があると感じました。そこで私が行ったのは、勉強が本格化する3年の秋までは就職活動を並行して行ったり、積極的にいろんな人に会って話したり、本をたくさん読んだりといったような多くの価値観に触れる機会を作ることでした。このようなことを行って、これから高校生と向き合っていくうえで何が話せるのか、自分のやりたい教育とは何なのかを考えるきっかけが増えていきました。こうした経験が、2次試験で行われる集団討論や個人面接で自分が言うべき意見として反映され、今後自分が教員になった時に核になると思われる考え方につながっていきました。

そして、学校内のことも合わせて知っておきたいと考えた私は、目黒区の小学校で行われた自然体験学習の引率ボランティアや台東区立駒形中学校で行われた学習ボランティア、さらには「東京の先生になろう」という教員志望者向けのイベントにも参加しました。実際に目指す校種とは異なる学校での体験が多かったのですが、実際に現場を見てみると、自分が将来教員としてどう動いていくかをシミュレーションすることができました。加えて、実際に現場を体験することで、自分が描いていた理想の教育がどこまで実現可能になるのか考えることができる良い機会になりました。

2 勉強するうえで決めていたこと

実際に教員採用試験に向けた勉強を本格化させたのは、3年の11月ごろからでした。たいへん忙しいサークルに入っていたこともあってなかなか勉強できなかった時期が続いていたのですが、学祭でのステージで一区切りつけようと考え、目の前のことに集中できる環境を作っていました。

実際に勉強を本格化させるにあたって、ひとつ自分の中で決めていたことがあります。それは、「時間の使い方を考える」ことです。アルバイトを週に3日やりながら教職教養や専門科目、さらには小論文や2次試験の対策も同時に進めるのは

とても大変でした。そうした状況の中で、どうしたら採用試験に合格できるか時間の使い方から見直しました。方法としては、まず自分の確保したい勉強時間を設定し、そこから勉強終了時間を決め、一つのことにかかる時間を1日で使える時間と照らし合わせてスケジュール設定をしました。そのようなスケジュールリングを行ったことで、19時にすべての勉強を終わらせると決めながら、1日の勉強時間を3~4時間確保し、アルバイトを週に3日こなすことで、量も質もこだわることができる勉強をする上に自分の趣味や息抜きの時間や睡眠時間も確保することができました。時間の使い方を考えることは今後社会に出たうえでも必要なスキルなので、採用試験に向けた勉強という形で身につけるとよいことも多いと思います。

3 最後に

教員採用試験は約1年という長い期間準備をして臨んでいくものです。そのため、モチベーションの維持がとても難しく、時にはさっさと就職してしまおうとも思った時期もありました。その中で自分の心の支えになったのは、教職課程センターで出会った仲間でした。情報や考え方の共有をすることで自分の進む方向を考えることができた上に、仲間と話すこと自体が自分の一番のリフレッシュ方法になりました。これから長い戦いが始まると思いますが、教職課程センターで出会った仲間とともに自分の夢をつかみ取りにいけるような時間を過ごしてください！僕も一人の人間としてもっと成長します！ともに頑張りましょう！！

覚悟と経験

栗田 侑果

（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科4年）

私は今年度、東京都公立小学校の教員採用試験を受験し、合格をいただくことができました。小学校での受験ということで、法政大学で中学（社会）、高校（地歴・公民）の免許を取得、他大学の科目等履修生で小学校の免許を取得しながらの受験となりました。

小学校受験者は私一人だけだったため、心細いことも多々ありましたが、教職課程センターの方々や講座等で共に頑張っている仲間を支えられてここまでやってくることができました。

さて今回は、他の校種にも通じる事柄で、私が教員採用試験を受験するにあたり心がけていたこと、役に立ったことについて紹介させていただきます。

受験するにあたっての覚悟

「先生という職は楽しいことばかりじゃない。はっきり言

うと大変だよ。でも子どもの前に出てから辞めるというのは、子どもの心に傷がつく。だから、教員になるのか自分の中でよく考えて、覚悟を決めてなしてほしい。」これは、ボランティア先の先生からいただいた言葉です。

私は今までいくつかの学校でボランティア活動等を行ってきました。理由は、「自分は自分自身が通ってきた学校しか知らない」ということに漠然と不安を感じたからです。教員になる前に、いろんな学校を知りたい、見たいという気持ちと、学校に身を置き自分が教員として将来やっていけるのか、ということを試してみたいという思いから、希望校種である公立小学校から、定時制高校、私立中高の部活動指導、島しょ部の学校等様々な特徴の学校に関わらせていただきました。

実際に学校に入ると、学校現場の大変さがひしひしと伝わってきます。ボランティア先の先生から言われた言葉を自分の中で繰り返し、この大変な環境で毎日やっていけるのか不安になることも多々ありました。また同級生が就活を終えている中、まだ一次試験すらも受けていない状態で、なぜそこまで教員にこだわるのかと自問自答することもありました。

しかしどんなに大変でも子どもたちの笑顔を見た時、子どもの成長を実感した時、子どもと共に喜びを分かち合えた時、大変だったことも報われるほどのやりがいを得ることができ、子どもたちが笑顔で学校生活を送り、成長する姿を応援したいということが、自分の教員になりたい理由なのだと思いき、覚悟を決めることができました。

他の人にはないものを身に付ける

小学校免許は通信で取得したため、大学で4年間専門的に学ぶ人よりも学問面では劣っているという自覚がありました。一方で、自分はその人たちが4年間専門で学んでいる期間何をしてきたか振り返ったところ、CD学部での学びや実践的な力をつけようと先述したような数々のボランティア活動等に力を入れて取り組んでいました。さらに、チアリーディングチームにも所属し、キャプテンを務めた経験もありました。このことは自分にとって大きなアピールポイントとなったとともに、他の人には負けない自信にもなりました。二次試験の面接の際も、面接官からチアリーディングやボランティアについて興味を持っていただき、突っ込んだ質問もされましたが、堂々と話すことができました。

教員採用試験に合格するため、たくさん勉強することも必要だと思います。しかし、最後はどれだけ自分をアピールできるかというところが鍵なのではないかと私自身は考えています。試験日を迎える前に、教職の勉強以外にも目を向け、広く世界をとらえておくことをお勧めします。そして何か一つでも周りにいる人よりも飛びぬけている「輝く何か」を持ち合わせる、または経験しておくといいと思います。

最後に

私自身が教員採用試験を受け終えて、やはりたくさんさんの経験を大学生のうちにし、「自分はどうしても教員になりたい」と確信して試験に臨むことが重要だと思います。たくさんさん

子どもと接したことで、勉強で行き詰ったとき、実際に子どもの顔がよく頭の中をよぎりました。具体的に子どもをイメージしながら勉強することで頭に入りやすくなった場面もあります。また、子どもたちの存在が自分自身の心の支えにもなりました。

そして、たくさんの人脈や仲間をつくることもとても大切です。特に教職の仲間はつらくなった時、困ったときに助け合い、励まし合いながら同じ目標に向けて頑張ることのできる大切な存在です。私自身も一人の力では合格にたどり着くことはできなかったと思います。

教員採用試験に合格することが今の時点では目標かもしれませんが、そこがゴールではありません。実際に働くことをイメージし、共に「魅力ある先生」を目指して頑張っていきましょう。

回り道をしなくても諦めないこと

似内 美来

(キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科4年)

1 はじめに

1次試験に合格した時も、2次試験に合格した時も、まさか私がという驚きが隠せませんでした。本腰を入れ始めたのが周りの誰よりも遅かった私が、合格することが出来たのは、周囲の支えがあったからこそであると考えています。本体験記を通して、自身の経験を振り返るとともに、これから教員採用試験を受ける人々を微力ながら後押しすることが出来れば良いと考えています。

2 合格までの経緯

時系列に沿って振り返りを行いたいと思います。大学1年時から大学2年時にかけては、教職課程センターの存在は知りつつも、実際に活用するという事は少なかったように思います。本当に活用し始めたのは、大学3年時の秋学期からです。もともと、私立高校出身ということから、私立に興味があり、私立志望者向けの説明会に参加したところから始まりました。私立を志望した理由としては、人事異動がなく、生徒が卒業後に母校に戻ってきても教師としてそこにいる可能性が高いこと、高校世界史を希望していたので、私立高校の方が枠が広いこと、応援団チアリーディング部の活動が週5日以上あったので、公立受験にあたり不安がとても大きかったことの3点が主な理由でした。3年生の後期からは、面談、教職教養の入門講座、論作文の対策講座を中心に受講をしました。ただ、やはりこの時点でも周りとの知識量の差、熱意の差にショックを受けることが多く、そこから、「教壇に本当に立ちたいのか?」「こんなに勉強を始めたのも遅いのでは教師になれるわけがないのでは?」と悩むことが多くなりました。大学4年になっても進路が決めきれなかった私は、周囲は教採1本でやるという覚悟が決まっている状況で、何も決めきれない自分自身に嫌気がさし、逃げるように就職活

動に取り組むようになりました。

就職活動に取り組みつ、教員に対する気持ちを諦められなかった私は、なんとなく私立の求人を探めるという日々が続きました。多くの仲業者に登録し、毎日なんとなく、日本私学教育研究会のホームページを確認する。そんな状況で見つけた方法が大学推薦という方法でした。大学推薦は、4年間の成績基準が足りていないともらえない資格であり、楽に合格できるというようなものではありません。相模原市の合格率はとて厳しく、1次の専門教養が免除になるだけであり、2次試験以降の優遇はありません。それでも、勉強時間は足りていない、部活があり専念できる環境でもない、でも教員を諦めきれないという状況の私にとっては、一つの希望でした。

教育実習を経て、ようやく教員になりたいと決心することが出来ました。そこからは、とにかく勉強をするしかないと心を入れ替え、部活と授業の間に、スタディールームとにかくこもりました。それだけではなく、私立高校の面接練習は必ず面接前には一度は行ってもらい、履歴書に書かなければならない内容と、それ以外にも質問として聞かれそうなことは、受験した高校ごとにノートにまとめるなどの対策を取るようになりました。勉強の面では、ひたすら穴を埋めるということ、そして、私は誰よりも遅れているのだという自覚を持って勉強し、面接や論文などは、どれだけ私の魅力を伝えられるだろうか、熱意をわかってもらえるだろうかと考えながら、とにかく話す練習をしました。履歴書は、書く面接です。勉強に時間をあてたいという気持ちはありましたが、試験を受けられないことがないように丁寧に書くということに注意をしました。周りの人に添削してもらったり、面接練習をしてもらったりと、結果として、多くの人の支えがあり合格へと結びついたと考えています。

3 後輩へ伝えたいこと

前述のように、私は決して優等生タイプの受験生ではありませんでした。準備にかかる時間も正直なところ全く足りていなかったと感じています。だからこそ、来年度以降受験する方々には、必ず同じようなことにならないように早め早めに対策をしてほしいです。大事なことは、教育実習後からでもなんとか考えることではなく、どのようなタイミングで火がついたとしても、「もう無理だろう」と諦めないで欲しいということです。諦めないということにも様々なやり方があると思います。がむしゃらに勉強する、公立志望だったけれど私立まで視野を広げてみる、受験方法を検討するなど、一人ひとりにとっての「諦めない」があるはずだと思います。どのようなことでもそうだと思いますが、最後は気持ちです。気持ちの面だけでは、様々な困難に負けないでください。教師になりたいと本気で思ったその日から、強い気持ちで、諦めずに過ごすことが結果に繋がるのではないかと考えています。

4 終わりに

部活動、就職活動、私立、大学推薦等、周りよりも何倍も回り道をしてここまでやってくることが出来ました。そこには、どんな選択をしても応援してくれる周囲の方々の支えがあったからだと考えています。

今でも、教師としての器があるのか自信もなく、4月からやっていけるのか不安でしかたがありません。ですが、回り道をしたからこそ気づけた「教師になりたい」という気持ちに素直に、目の前のことに真摯に向き合っていきたいと思えます。

あなたを支えてくれるもの

長澤 祐介 (国際文化学部国際文化学科4年)

この度、神奈川県教員採用試験・高等学校英語科を受験し来年度より働かせて頂くこととなりました国際文化学部の長澤祐介と申します。まずはこの場をお借りして、私を支えてくださった多くの方々に対してお礼を言わせて頂けたらと思います。今回は合格体験記ということで私が教員採用試験を通じて感じたことを書かせて頂きますので、教員を目指す皆さんの力に少しでもなればと思います。

二次試験個別面接

面接官:「最後の質問ですが、あなたが生徒に一つ伝えたいことはなんですか。」

私:「はい。私は今まで目標を達成する過程で多くの失敗をしてきましたが、再度挑戦したことで今の自分があり、多くの素敵な人達と出会うことができました。そのため、生徒達に失敗を恐れず挑戦することの大切さを伝えて行きたいと思えます。」

本番の2次試験ではとても緊張しましたし、圧迫面接だったこともありほとんど答えたことを覚えていないのですが、上記は最後の質問に対して咄嗟に答えた唯一鮮明に覚えている言葉です。失敗を繰り返し、何度も自身の未熟さを痛感しながらもここまで歩んできた私を象徴する言葉だったと思います。事前に面接の準備はしていましたが、予想していた質問ではなかったため用意していた返答ではありません。この返答がどのように評価されたのかはわかりませんが、私が伝えたいことは「教師になることを見据え、積み重ねたことは教員採用試験であなたを支えてくれる」ということです。「教師になるためには教員採用試験に合格することが最優先なのだから、そんな綺麗事は言っていられない」と言われてしまえば、それもそうだと思います。しかし、未来に出会う生徒たちを思い浮かべて、少しでも教員として必要な資質の向上を目指し、自身と葛藤した姿勢や情熱は模擬授業や面接の場面で必ず体现されると思います。例えば大学の講義で実際に授業をする回数が少なく不安があるならば、本を読む・研究会への出席・学校での学習支援ボランティア等で知識や経験を積むことができると思います。他にも生徒指導・学級経営・部活動等についても学ぶ方法はたくさんあると思います。

こうした積み重ねが教員採用試験でもあなたの力になります。学年を問わずあなたが教職に抱いている情熱を行動に移し、本番の教員採用試験に臨んで頂けたらと思います。採用試験に合格した私ですが教科指導・生徒指導・学級経営・部活動等ほぼ全てに関して多くの不安を抱えています。皆さんと同じように高い志を持って私自身も学び続けていくので、一緒に頑張りましょう。応援しています。

挑戦して良かった

塚原 咲 (文学部日本文学科4年)

私は今年度、埼玉県の高校国語の教員採用試験を受験し、合格しました。この合格体験記では、私が試験対策として行ってきたこと、そして後輩の皆さんへのメッセージを伝えたいと思います。少しでも参考になれば幸いです。

1 1次試験について

埼玉県の1次試験は筆頭試験のみで、科目は「教職・一般教養」「専門科目(国語)」の2つです。私は3年の秋ごろから勉強を開始しました。とはいえ、最初は何をして良いかわからなかったため、センターの指導員の先生に相談し、勉強の筋道を立てていただきました。まず、教職教養は参考書でひたすら学習し、ある程度力がついてきたと思ったら全国の過去問で問題演習をしました。そこからは問題集と参考書を行ったり来たりしながら、わからない事一つひとつなくしていきました。地道な方法ですが、効果はあったと思います。一般教養も同様のやり方で進めましたが、埼玉県は一般教養の中でも文系内容が比較的難しく、理系科目の方が得点しやすい問題になっていたため、数年ぶりに数学や理科の問題に対峙することになりました。一般教養は自治体によって出し方や範囲がかなり異なるので、過去問分析が重要です。専門科目の対策は、過去問を数年分と問題集一冊で済ませましたが、正直、これは甘かったと思っています。本番の試験では、教職・一般教養で十分な手ごたえがあった一方、専門科目はまるで歯が立ちませんでした。結果は、教職・一般教養が86点、専門科目が49点でした。試験が終わってから結果が出るまで、不安な日々を送ることになったので、皆さんにはバランスの良い学習を行ってほしいと思います。また、教育実習の前後はかなり多忙で、勉強をしている余裕はありません。早め早めの学習をおすすめします。

2 2次試験について

2次試験の内容は「小論文」「集団討論」「集団面接」「個別面接」です。1次試験と同様、3年の秋ごろからセンターの講座に参加して、対策を始めました。2次試験は、1人での練習が難しいため、センターの仲間や先生から多くの助言をいただきました。私が最も苦手としていたのは小論文で、先生との個別相談のときに何度も添削していただきました。小論文は、当日どんな課題がきても落ち着いて書けるよう、ネタをたくさん用意しておくことが必要です。これは小論文だけで

なく面接や集団討論でも言えると思います。私は教育に関するニュースを今まで以上に気にするようになりました。2次試験対策を進める中で、いじめや虐待、体罰など教育に関する問題に対する関心が高まり、教職に就くということと深く向き合うようになったのは私の中で大きな変化だったと思っています。今日の教育のことを知るなかで、「自分が教員としてどんなことをしていきたいか」をしっかりと意見として持てるようになり、練習を重ねるにつれ緊張もほぐれたことで、試験当日も自信をもって伝えることができました。

3 最後に

合格通知を受け取ったあと、家族やセンターの先生、友人や先輩、後輩、そして教育実習先の先生方に至るまで、多くの方が自分のことのように喜んでくれました。そこではじめて、たくさんの方が自分を心配し、支えてくれていたことに気がつきました。教員採用試験は私にとって大きな挑戦でしたが、試験対策などを含めて本当に良い経験ができたと感じています。この経験を糧に、今後長く続く教員としての道を歩んでいきたいと思っています。これから試験を受ける皆さんは、周りが次々と就職を決めていく中で、黙々と勉強し続けることはつらいこともあると思います。しかし、努力していれば支えてくれる人が必ずいます。自分に合ったやり方を見つけ、最後まで諦めずに合格を手にしてください。

東京都教員採用試験

篠原 鉄志 (理工学研究科システム理工学専攻2年)

私は、今年度の東京都教員採用試験に中高数学で合格しました。このように合格体験記なるものを書かせて頂いておりましたが、今回が3度目の受験になります。1回目は、1次試験で不合格、2回目は2次試験で不合格、3回目ようやく合格しました。この3回受験の経験を踏まえ、合格に向けての勉強方法や対策方法を伝えたいと思います。この体験記が少しでも後輩の皆さんの参考になれば幸いです。

1 一次試験

東京都の一次試験は、大きく分けて3つの試験が課されます。1つ目は専門科目である数学、2つ目は教職教養、最後に小論文です。これらについて、私の経験を踏まえた3つの試験の勉強法を記していきたいと思っています。

専門科目である数学について

私は、採用試験の数学の勉強に3つの参考書を使っています。1つ目は、中高の数学を復習する参考書、2つ目は東京都の過去問、3つ目は他県の過去問です。東京都の数学は、中学校と高校全ての範囲から出題されます。私は、それらの範囲を網羅するために数研出版の青チャートを使っていました。勉強時間は、1日5時間で数学IAや数学IIBなどの単元を跨いで勉強していました。東京都の問題は、基本的に青チャートの基本例題と重要例題が解ければ問題ないと思います。東京都の過去問は、数学の勉強を始める前に直近の問題

以外を1度解いておくとういことです。私は、過去問で解けなかった分野から青チャートで勉強していました。特に4年生は、教育実習で忙しい時期が重なるので、効率も考えて勉強することを勧めます。加えて、他県の過去問を用いて勉強する理由をお話しします。東京都の受験者は、神奈川県と千葉県の問題を解くことを勧めます。その理由は、神奈川県や千葉県で出題された数学の問題は東京都で出題されることがあるからです。私は、東京都と神奈川県で問題と解答も同じ問題を何問か見ました。最後に、東京都の数学は満点をとる必要はありません。東京都の専門科目で重要なことは、時間内に他の受験者が解ける問題を確実に解答する力です。そして、他の受験者より少し多く正答できればよいのです。私も1次試験を通過した2回の試験ともに大問を1つ全て捨てています。それでも合格します。試験当日に焦った際は、時間内にどの問題が確実に解けるか落ち着いて判断して欲しいです。

教職教養について

私は教職教養の勉強は、東京都の過去問だけで十分だと思います。東京都の教職教養は、毎年似た問題が出題されています。合格得点への近道は、過去問演習を10年分を行い、傾向を掴むことです。また、何度も同じ問題を解くことが大切です。学習指導要領で変更点などあった場合には、それらの変更点は別途勉強する必要があります。しかし、基本的には東京都の教職教養に限ってのみ過去問演習で大丈夫だと思います。空いた時間に少しでもいいので、復習するとよいと思います。

小論文について

私は、この小論文が3つの試験の中で1番比重の大きい試験だと思います。東京都は、専門科目と教職教養が振るわなくても、この小論文で十分逆転できるくらいの比重があると思います。小論文の対策は、教職課程センターの添削なしにはできません。私は、教職課程センター指導員の田神先生の指導なしには合格できませんでした。小論文は、1週間に3枚程度を別テーマで書き、教職課程センターに添削をして貰っていました。小論文の対策は、それを1次試験まで続けるだけで十分です。

2 二次試験

東京都の2次試験は、集団討論と個人面接の2つです。そして、個人面接では単元指導計画と個人面接票を作成する必要があります。集団討論や個人面接の対策は、1人ではできません。同じ教員採用試験を受ける友人や教職課程センターの方々と面接の練習をする必要があります。面接は、「どんな教師になりたいのか」や「どんな指導をしたいのか」など、教員になってからの抱負を考えることが大切です。そのためには、実際に生徒と関わる機会を多くもつ必要があります。受験を真剣に考えている人は、学習指導ボランティアなどに積極的に参加して具体的な指導経験を積んでおくとういと思います。面接票と単元指導計画の内容も面接練習と同様に1人で考えることは難しいです。これらは、内容を考えること

に相当な時間を要します。特に単元指導計画を書くにあたり、選ぶ単元に悩む人は多いと思います。私は、自分が最も具体的な指導方法を思い浮かべられる単元を選ぶことを勧めます。実際の個人面接では、「この単元のこの教材はどう指導する？」などの具体的な内容を聞かれます。これらに対応するためにも、具体策が思い浮かぶ内容を書くことが大切です。これら2次試験の練習は、1次試験の前から行って行っていました。2次試験の対策は、1次試験の後ではなく早めに行っておくと他の受験者と差が付いていいです。

3 最後に

この採用試験は、1人で合格することはできませんでした。試験が佳境に入るにつれて、周りの多くの方々に支えてもらっていることを実感しました。私は、家族や友人、教職課程センターの指導員の方々、指導教授に後輩など多くの人に支えられて合格することができたと思っています。教員採用試験の敵は、自分の中にいます。試験が始まる頃には、周りの友人は内定をもらっています。自分だけ進路が決まらない中、合格発表の日まで勉強を続けなければいけません。試験の当日まで、勉強に集中できない日や不安になる日など沢山の苦労があります。実直に勉強をすればするほど、出来ないことに不安になります。時には、勉強をしない日や何もしない日、遊ぶ日があってもいいと思います。試験までの過ごし方は、人それぞれです。それでも、勉強不足を暮は待たない。その日まで、どんな過ごし方をしても試験の日は待ってくれません。最後に自分を助けてくれるのは、毎日の積み重ねです。これから試験の当日まで後悔しない日々を過ごして欲しいです。頑張ってください。

2年間の現場経験で身につけた「教員力」

佐藤 翼（理工学部創生科学科卒業生）

私は、大学4年生の時、採用試験に落ちました。

「授業力のなさ」、「話す力、語る力」すべてにおいて力の無さを痛感しました。それから、非常勤講師として1年目。授業、プリント、テスト作成と部活動指導など仕事を経験し、採用試験は受けず、仕事のやりがい存分に学びました。そして、非常勤2年目の今年、正規で神奈川県中学数学と私立学校の2つに合格することができました。

私は、是非①非常勤講師で働く予定の人、働きながら採用試験を受ける人②私立に興味を持っている人に参考になればよいと考えています。

(1) 働きながらの勉強を勝ち抜く必須アイテム

働きながらの学習になるので、どうしてもほかの人よりも学習時間は少なくなってしまいます。実際、1次試験前後が勤務校の定期考査と重なったりして上手く学習時間が取れなかったです。そのため大切なことは、ズバリ、「効率よく学習！」。

(2) 神奈川県合格に向けた対策

1 次試験で不安なのは一般教養、教職教養だと思います。そこで、過去問を手に取り、毎年どの教科のどの分野がでているか調べてみてください。必ず、傾向がつかめます。教職教養も、「どの分野が毎年出ていますか？教育史で毎年登場するのは誰ですか？」など傾向が見えてくると思います。私は、傾向を見て頻出のところを重点的に勉強しました。参考書としては、東京アカデミーの参考書がおすすめです。

次に、2 次試験です。神奈川県は 2 次試験の「面接」の配点が 200 点と高いウェイトを占めています。そして、2 次試験の論作文が 1 次試験の日に実施されます。そのため、私は、3~6 月は「面接」「論作文」に力を入れ、7 月に「模擬授業」の対策を重点的に行いました。特に、面接、論作文、模擬授業は現場経験で毎日培えるので、これといった対策というよりも、毎日が対策につながっていると思っていました。話し方 1 つとっても意識して話せばそれも対策につながっているということです。しいていうと「面接」は「準備量」で差がつきます。そのため、面接で語れるエピソードを人よりも多く持ち、そして経験から語れるように、毎日の授業での取り組みや子どもの様子、成長したところ、変化を日記のように記していました。実際、それらを面接や論作文の策や具体例を書くことに生かしました。面接実践練習では、私は、家から近い予備校での面接練習に参加しました。とにかく練習して、実践力を身につけるべきだと思います。大学で実施されている面接練習も友達と練習することで、自分にはない価値観・考えに気付けるので最大限に活用すべきです。また、アドバイスや分からないところを聞きやすい環境なので、ぜひ参加してみてください。

(3) 私立は授業力が勝負！

私立教員採用に関して、あまりよくわからない人も多いのではないかと思います。私立は、まず私立採用の募集要項を HP でチェックしていました。そこで、勤務形態（非常勤講師、常勤講師、専任教諭など）や給料などを把握することもできます。私立は、学校ごとに校風やカラーも違うため、行ってみたいとどんな学校であるのかわかりません。そのため、私立は「情報戦」です。私は、幸い、知り合いの学校やいとこの学校、現勤務校の先輩の学校などを中心に、学校の情報を詳しく聞き、よいと思った学校を受けました。また、毎年 8 月に行われる「私学適性検査」も受験しておくことをお勧めします。B 以上の評価を得ると、だいたい筆記試験が免除され面接からスタートできます。また、私立は多いところでは、1 次試験から 4 次試験まであり、募集人員もわずかです。受けた学校の中で、1 次に 40 人ほど受験し、最終合格 1 人という厳しい戦いもありました。

筆記試験の対策として、何校か受けて、分析してみると、MARCH レベルの問題でした。バリバリの進学校などは早慶レベルだったと思います。

働きながらの筆記試験の対策は、大学受験用の参考書を使い、毎日 3 問と決めて解いていました。また、授業で高校 3

年生の演習授業を担当していたので、ある程度数学 I A I B の基礎から標準レベルは触れる機会もあり、生徒に教えることで深い理解につながっていたのかもしれない。

また、私立は「模擬授業」の配点の割合が高いと思います。模擬授業についての対策は、現場での経験がそのまま直結すると思います。①話し方②視線③的確な発問④板書の仕方・工夫⑤声の大きさ⑥授業の工夫などを普段から意識するように授業をしていれば、自信をもって模擬授業に臨めると思います。これについては、一番ためになったという対策があります。それは、現勤務校の空き教室を借りたり、大学に足を運び教室を借りたり、模擬授業の範囲の授業を練習したことです。必ず、試験日までに少なくとも 3 回は練習しました。授業は、練習して、自分の課題を見つけて、修正し、実行すれば必ずよくなると現場で学んだので、練習あるのみです。

また、現勤務校の諸先輩の授業見学をさせていただき、よい部分を吸収するようにしました。授業は、自分のスタイルも大切ですが、他の先生の授業を見ることで説明の仕方、板書のスタイルなど自分の授業に取り入れ、さらによりものにできると思います。

そして、後悔していることが 1 つあります。模擬授業の範囲は、専任教諭募集だと数学Ⅲの範囲が多かったです。数学Ⅲの問題は解けるものの、人に説明するぐらいの力や教える手順などは、日ごろから教材研究しておくべきだったと思います。

そのため、日頃から教材研究を行い、苦手な生徒でもわかる説明を心がけておくべきだと思います。面接対策は、公立の対策が生かせると思い、特に私立に特化した対策はしていません。

まとめ

毎日生徒と接することで、担任を持ちたいという思いが続き、そのモチベーションを学習に生かせたと思っています。働きながらの勉強は正直きついです。部活動指導から家に帰って勉強するところにはもう眠気しか残っていなかった記憶もあります（笑）。

でも教員として必要な力を学び、即戦力となるために修行をしていると思い、働きながらの勉強も頑張ってもらいたいです。私は、2 年間の非常勤講師での経験を通して成長を実感しました。必ず経験はどこかで生きてきます。教員は子どもの成長に関わることができるやりがいのある仕事です。教員志望の皆さんが一人でも多く、教員という素晴らしい仕事に就き、活躍されることを心から応援しています。長くなりましたが読んでくださってありがとうございます。

失敗から学び、合格に至るまで

横井 耀（生命科学部生命機能学科卒業生）

私は、大学4年生の時に東京都と地元である山形県の教員採用試験を受験しました。その際、東京都は正規合格をいただいたのですが、第1志望の山形県があきらめきれませんでした。翌年から山形県で講師として仕事をしながら再受験し、今年、中学校理科で合格をいただきました。その中で取り組んだことについて紹介させていただきます。あまりたいしたことは書けませんが、少しでもお役にたてれば幸いです。

1) 受験自治体について

もしかすると、複数の自治体の受験を考えている方もいるかもしれません。その時、受験の内容、点数配分の比率など、より多くの情報を入手しておくといいかもしれません。当たり前のことと思われるかもしれませんが、私の場合、東京都と山形県の受験方法に大きな差があったため、どっちつかずの状態になってしまったことが山形県に落ちた原因だと思っています。大学4年生は非常に多忙です。複数の自治体の受験を希望する方は早めに準備をすることを勧めます。

2) 1次試験について

次に1次試験の取り組み方について紹介させていただきます。大学のとき、私は体育会剣道部に所属していましたが、4年次に休部し勉強に専念しました。過去問や参考書を解くことはもちろんのこと、友人たちと問題を出し合ったり、教え合ったりしながら取り組んだことが合格に繋がったと思います。講師として働いていたときは時間も限られていたので、土日にまとめて図書館で勉強したり、開催されているセミナーに参加したりするなどしていました。ほとんどの自治体が1次試験で筆記試験を課すと思いますが、是非それぞれの自治体の特徴をつかんでください。私は、東京都の場合には教育法規をひたすらに取り組みました。また、山形県の場合には専門教養の配点が高いことやマークシートではなく、筆記試験だったため大学受験のように生物・物理・化学・地学に取り組みました。中学校理科で受験を希望される方は非常に大変だと思いますが、1つ1つ苦手な教科をつぶしていきましょう。私はまず1冊の参考書と過去問をひたすら解きました。

3) 集団討論・面接・模擬授業について

集団討論の練習は、とにかく仲間やいろいろな人と行ってみてください。私は現役のときは教職課程センターに通ったり、仲間を集めて練習会を開いたりするなどして取り組みました。ここはとにかく練習あるのみです。意識してほしいのは「他の人の話を聴く」「否定しない」ということです。もし余裕があれば、なかなか発言できない人に質問するということができるといいかもしれません。集団討論では「協調性」が結構見られている部分だと思います。そのため、誰かを置いてきぼりにするような討論にならないよう気を付けた方が

いいと思います。(ただし教育的に的外れなことを言っている人は除く) また、集団討論のテーマは教育問題に関することが多いと思うので、教育時事は押さえておくといいかもしれません。

面接は、現役の際は田神先生、講師の時は校長先生など多くの先生方にたくさんご指導をいただきました。とくに緊急時の対応や生徒指導などは、実際の現場でも非常に役にたつのでぜひ聞いてみてください。

模擬授業は、ある自治体とない自治体があると思いますが、山形県は2次試験でありました。15分間という中で授業を進めるのですが、私が参加したセミナーでは「先生が一方的にしゃべる授業にならないこと」「生徒たちの反応を引き出すこと」「無理に時間内に終わらせようとしないこと」の3点を強調していました。経験がない人も多いと思いますが、まず堂々と一生懸命取り組む姿勢を見せられれば大丈夫だと思います。

4) 最後に

試験が近づくにつれて不安になる人がいるかもしれません。その時は、ぜひ目標を同じくする仲間と話し合ってみてください。それだけでだいぶ気持ちが楽になると思います。私が講師時代に一番つらかったことは1人で試験に臨まなければならない、ということでした。モチベーションを維持することが大変でした。その中で最終的に支えになったのは教壇に立っている同級生や先輩からの応援でした。みなさんも仲間とモチベーションを高め合い、支え合いながら最後まで目標に向かって精一杯頑張ってください。

私学適性検査

小松 友樹（理工学部創生科学科卒業生）

私は、昨年度の私学適性検査の結果から日本工業大学駒場中学校高等学校数学科教員として採用していただきました。在学中は、大学の学業に加え、公立中学校の外部指導員・学習支援、さらには部活動の部長として組織を運営しながら受験勉強をしてきました。限りある時間の中で、何を考え、どう過ごしてきたのか。この体験記が少しでも、教員を志している学生の皆さんの参考になれば幸いです。

1 私学適性検査

私学適性検査は、専門教科と教職教養によって構成されています。いずれも選択式・記述式のものが一般的で、難易度も決して簡単とは言えないものとなっています。特に専門教科に関しては、大学入試レベルの知識が求められます。検査の結果はそれぞれA~Dという形で判定され、この結果が受験者及び私立学校へ送られます。そして、この結果を基に、私立学校が受験者に連絡を取り、各学校で行われる採用試験に進むという流れになります。(私の場合は、書類選考→一次面接→二次面接でした。)

まず初めに、私学適性検査に向けての専門教科・教職教養の勉強法、その次に、私立学校における採用試験に向けての

勉強法を記していきたいと思います。

(1) 専門教科 (数学) について

私は、数学の勉強に2種類の参考書を使っていました。1つ目は高校数学を復習する参考書、2つ目は過去問題集です。私学適性検査においては、出題されるほとんどの問題が高校数学の範囲から出題されます。すなわち、高校数学の基礎を完成させる必要があります。私は、上記の範囲を徹底的に固めるために、主に青チャートⅠAⅡBⅢを使っていました。1日平均5時間は取り組むよう時間をつくるようにしていました。ただ、隙間時間すらも数学の学習に充てているとその他の学習が疎かになってしまうので、ある程度(少なくとも30分)の時間が確保できた際に必ず数学の勉強を徹底して行うことを心掛け継続しました。しかし、冒頭でもお伝えしましたが、ひたすらに問題を解き続けていては時間が足りなくなるため、効率が悪くなってしまいます。そのため、基本的な流れとしては例題の解説を読むことを行いました。問題の解法がスムーズに理解できるようなら他の問題へ移り、少し考え止まるようならば実際に書いて理解するように努めました。つまり、効率性をなるべく重視した学習という点に焦点を当てて取り組むことが大切ということです。というのも、実際の試験でもすべての問題を完璧に解くというはかなり難しいことで、解ける問題から確実に抑えていくという能力が求められるのです。実際、仕事をしていく上でも効率的に消化していくことがとても大切になってきます。前述のとおり、主な学習は青チャートを使用することにしていました。過去問題集に関しては、実際の試験の環境に寄せて解くという点を培うために使用しました。実施する回数が多ければ多いほど試験慣れはできますが、気を付ける点は理解できたつもりになってしまうことです。結局のところ、自分を律して堅実に取り組み続ける姿勢が必要であると実感しました。

(2) 教職教養について

私は、主に2種類の参考書を使っていました。1つ目は「教職教養らくらくマスター(単語帳形式)・30日完成」、2つ目は「過去問題集」です。基本的には、専門教科と同様の流れで取り組みました。ただ、1点だけ異なる点として、教職教養は主に隙間時間に取り組むようにしていました。専門教科はまとまった時間、教職教養は隙間時間というように区別化して取り組みました。過去問題集は、一定期間上記の学習を展開したのちに取り組みました。

2 私学における採用試験

私学適性検査の結果から、様々な学校から採用試験のお声掛けをいただきました。現在勤めている職場では、個人面接を2回行いました。面接に向けて様々なことを考えてきましたが、1つ強く実感した点があります。それは、面接へ向けての練習だけではいけないという点です。面接で聞かれる傾向が強い内容を優先的に学習し、アウトプットすることはもはや当然です。何よりも大事なことは、自分で自分を理解しようとするのと、普段から身の回りのきっかけにアンテナ

を張っておくことです。自分で自分がわからないと必ず芯がぶれます。教育者としての理想像をさも今の自分自身であるかのように虚勢を張り、振る舞ってしまっていた方を何人も見てきました。理想もとても大切ですが、まずは現状の理解が必要です。それは、教育現場、教育者としての自分、人間としての自分などです。上記における現状の理解のためには、様々な人と接すること、なるべく教育現場で体験すること、そして人間力を培うことが必要とされます。私も、公立中学校の外部指導員や学習支援員、研修会等になるべく参加しました。そして、日常生活でも常にあらゆる面にアンテナを張って生活してきました。上記のことを満たすためには多くの時間が必要です。今から意識し始めても遅くないと思いますので、是非実践していただければと思います。

3 最後に

私は、1人では決して合格することはできませんでした。日々、多くの方に支えられていたことを今でも思い出します。大学でお世話になった先生方をはじめ、現場で指導くださった現職教員の方々、友人、そして家族には感謝してもしきれません。採用までの道のりにおいて、周りに敵などいません。一番の敵は自分自身です。常に葛藤の日々でしたが、そんなときこそ自分自身と対話をし、寄り添っていくことで乗り越えてきました。今の過ごし方は遠回りかもしれない、無駄かもしれないと思うかもしれませんが、時間は残酷なもので、待ってくれません。しかし、平等に与えられているものです。私は今でも必ず意識していることがあります。それは、「良い教員になる前に良い人間になる」ということです。教員として教壇に立つとき、目の前には可能性にあふれた子どもたちがいます。教員と生徒ではありませんが、本質的には人と人なのです。互いが対等に充実した時間を過ごしていくためには少なくとも教員である私たちが人として良くなければならないと思うのです。結局は、平等に与えられた時間をどのように色づけていくのかは自分の働きかけ次第であるということです。色づけていった結果できた作品が、自分にとって美しく素晴らしいものだなと思えるように過ごしてほしいと強く思います。そして先の未来で、その作品がより多くの人に素晴らしいと思ってもらえるようになってくれればと思います。

教員採用試験

岡本 大志

理工学部創生科学科卒業生(現:埼玉大学教職大学院生)

2年連続の執筆です(笑)。昨年は地元自治体に合格することができなかったため、教職大学院進学を選択しました。今年度は、さいたま市と埼玉県の教員採用試験に合格することができました。2年間教員採用試験を受けて感じたことを書かせていただきますので、参考にさせていただいたら幸いです。

① 1次試験に向けて

さいたま市は大学推薦での受験だったので1次試験は免除でした。埼玉県対策について書かせていただきます。(埼玉県とさいたま市の問題は同じです)

埼玉県は教養試験(一般+教職)と専門科目の試験があります。昨年は専門科目の点数が低かったので専門科目を中心に学習しました。埼玉県の問題は1問1答形式なので、1問1答形式の問題を多く解きました。昨年受験した岐阜県の問題や東京都の大問1を解きました。その結果、専門科目では9割を超える点数を取ることができました。志望自治体の傾向に合った問題を繰り返し解くことが重要だと思います。また、学習指導要領に関する問題も毎年出題されているので、しっかりと見ておいた方がよいと思います。教職教養は、一般的な参考書(「教職教養らくらくマスター」:実務教育出版)や「教員養成セミナー」で勉強すれば、埼玉県の場合は大丈夫だと思います。一般教養は範囲が5教科+音楽や美術、技術・家庭科など多岐に渡るので、比較的得意な範囲を勉強して全体で8割くらいを目標にするのがよいと思います。

② 2次試験に向けて

さいたま市は個人面接、模擬授業、小論文の3種目、埼玉県は個人面接、集団討論、小論文の3種目でした。

昨年は集団討論の結果が悪く、合格することができませんでした。終わった瞬間は上手くできたと思ったのですが、点数開示を行ったときに集団討論が原因で不合格になったと初めて分かりました。半年くらい自分なりに反省点を考えた結果、議論があまり深まっていなかった可能性があると思いました。そこで、今年は自分の意見をはっきり伝えることを重視して練習や本番に臨みました。その結果、視点を変えた発想を出したり、議論の柱を立てたりすることができたので、昨年よりも議論を深めることができたと思います。協調性も非常に大切なポイントですが、内容の転換や新しい発想を出すことも有効だと思うので、バランスを意識して練習することが大切だと思います。

個人面接は、まず自治体の情報収集を昨年の10倍くらいは行いました。自治体ごとの教育振興基本計画を読んだり、いじめや不登校数、学力調査の結果を覚えたりし、自治体のよい点や課題点を把握しました。個人面接の結果は昨年も悪くなかったので、昨年と同じように友人や先生との練習を繰り返して行いました。自分自身が面接官になって練習することも重要だと思います。

模擬授業は、さいたま市の「よい授業」4つの因子を意識して練習を行いました。さいたま市の場合は事前の模擬授業の課題はないので、当日指定された内容を行うこととなります。そのため、自分なりの授業の型を作ることが大切だと思います。自分は生徒に考えさせる時間をとったり、ペア学習を入れたりすることを意識していました。

③ 終わりに

2年間教員採用試験を受験し、感じたことは「軸」のある自分の考えを伝えることの大切さです。昨年は、教員養成セ

ミナー等に載っていた回答例を参考に面接の答えを考えていました。しかし、今年度は教職大学院での学習を通して、時間をかけて自分の答えを考えていきました。法規等の質問は答えが決まっていますが、答えが1つでない回答も多くあります。自分にとっての答えの「軸」をしっかりと考え面接練習等を行うことが大切だと思います。

教員採用試験に向けて

白井 佐樹(理工学部創生科学科卒業生)

私は、東京都の中高共通(数学)の教員採用選考に合格しました。昨年度も受験しましたが、二次選考で不合格になりました。今年度は、私立の高等学校で非常勤講師をしています。今回は昨年度と今年度の採用試験に向けて取り組んだことや心構えをお伝えしたいと思います。

1 一次試験対策

東京都の一次試験の内容は論文、専門教養、教職教養の3つでそれぞれ対策を行いました。

論文

論文の対策は大学3年の12月頃から始めました。どんな内容でも自分の書きやすいような形をつくることを目標にし、田神先生に十数回添削をしていただき、試験当日まで定期的にかき続けました。特に意識していたことは前文の文字数や柱の価値付けです。東京都の試験では論文は1050字以下という指定になっているので、前文の内容が短すぎると後半で字数が足りなくなってしまう。また、内容がしっかり書いていても、価値付けができていないと問題の意図を読み取れてないと捉えられてしまうので意識して書くようにしました。

専門教養

専門教養は余裕をもって50点以上取ればよいので、初めに過去問を解き、解けなかった問題を大学受験のときに使っていた問題集から類題を探して反復して練習しました。2年目では一次試験の問題と同じレベルの問題集を買い、週末や空いた時間に解くようにしていました。

教職教養

一次試験の勉強をするにあたってもっとも力を入れて勉強していたのが教職教養です。もともと教職教養の知識があまりなかったためまずは参考書を買って、1日2、3ページ進めることから始めました。(参考書は幾つかあるので自分の読みやすいものを選ぶといいと思います)そして、3月頃から過去問を解き始めました。東京都の教職教養の問題は少し特殊なので、ある程度知識を蓄えたら過去問を何度も解き直した方がよいと感じました。また、携帯のアプリで東京都の教職教養向けの問題があるので、電車や隙間の時間にできるのでオススメです。今年度はあまり時間をつくれなかったので過去問を解き、参考書を確認する程度にしか使わなかったです。

2 二次試験対策

二次試験は、個人面接と集団討論の2つがあります。個人面接と集団討論は、田神先生のもとで複数人で練習をします。練習をするにあたって個人面接においては志望理由、大学生生活で頑張ってきたことなど最低限聞かれそうな質問内容を考えておくとよいです。

本番の面接では、一次試験の合格した際に配布される面接票や単元指導計画の内容から質問されるので、自分が書いたものを完璧に頭に入れていく必要があります。特に単元指導計画は自分の決めた単元であり、内容も自分で決めるものなので、なぜその単元を選んだかをしっかり考えてください。

また、面接官は30分の面接時間の中で面接票から質問される内容を考えるので面接票を見やすく、更に伝えたい内容ははっきりと強調して書くとうよいです。

集団討論は、題材にあわせて5~6人のグループで話し合います。題材の内容は、あらかじめ4つの中から一つをランダムに選ばれます。したがって前もって準備はしやすいです。

集団討論は基本的には論文と同じように論・例・策を考えておくと話しやすいです。また、同じグループの中で話をまとめるので、流れを崩さないようにするとお互い話しやすくなるので合格しやすいと思います。

3 最後に

一次試験は、勉強をサボりすぎなければ通過できると思います。専門教養と教職教養の点数に自信がなくても論文をしっかり書いていけば案外通ります。二次試験は集団討論のあとに個人面接があります。集団討論と個人面接では声の大きさや話す雰囲気など変わってくるので、感覚的にうまくいってもいなくても気持ちを切り替えておくべきです。

教員採用試験の勉強は、大学の試験や研究、教育実習と並行してやっていかなければならないので忙しく不安になることもあると思います。しかし、教員採用試験を受験する誰もが同じように感じているはずで。私も、大学の教職の授業などでできた仲間や面接練習をともにやってきた仲間と問題を出し合ったり、協力し励まし合ったりすることで採用試験を乗り越えられたと思います。その仲間とは今でも情報交換をしているので、一人で抱え込まずに仲間と一緒に頑張ってください。

教員採用試験合格までの道のり

小島 春奈

(理工学部創生科学科卒業生) (現：千葉大学大学院)

私は、法政大学理工学部創生科学科の卒業生です。千葉県・千葉市の中高共通理科を受験し、合格しました。現在は大学院生ですが、専修免許は取得しておらず、修士2年で初受験しました。

1. 試験合格に向けて

(1) 一次試験

千葉県の一次試験は、教職教養・専門科目の筆記と集団面

接・討論でした。教職教養は参考書、千葉県教育委員会 HP の資料、過去問、千葉大学が開講する講座を使って対策しました。どの自治体においても、まず過去問を解いて傾向を掴むとよいです。千葉県は県の教育施策が多く出題されるので、HP の情報を毎日チェックしていました。学習指導要領が移行される年だったので、旧指導要領の問題は解答が異なる可能性があったため、2年ほどしか過去問は解いていません。専門科目は、過去問とセンター試験レベルの問題集を使用しました。教職教養と同様に最初に過去問を数年分解いて傾向を把握するとよいです。私は生物が苦手だったので、専門科目の勉強はほとんど生物に充てていました。筆記試験の対策は3月中旬から始めました。集団討論は一人では対策ができないので、仲間をつくるのが必須です。私は千葉大学の教採勉強会に参加し、対策をしました。3月~5月くらいまでは討論の形に縛られず、過去の個人面接や集団討論の発問に対する自分の考えをまとめていくことをしました。6月頃から討論の形式に慣れる練習を始めました。週に2回の練習で約30個のテーマについて練習を行いました。

(2) 二次試験

二次試験は個人面接、模擬授業、適性検査でした。適性審査はマークシート形式で、素直に解答していけば問題ありません。模擬授業は、どれだけ練習したかが鍵です。私が模擬授業を作る上で意識したことは2つあります。一つ目は、何が授業の目的なのかをはっきりさせることです。限られた時間の中で、その授業の目標は何なのかを一つ決めると授業の構成が練りやすくなると思います。二つ目は、自分の言動に無駄がないかを徹底的に確認することです。口癖や要らない言葉を入れて説明が長く、わかりにくくなっているかを確認しながら何度も練習を重ねました。個人面接は、教員になりたい思いを自分の言葉で伝えることができれば大丈夫です。その中で、これだけは面接官に伝えたいことを少なくとも2つ用意しておくとうよいと思います。面接官は聞いてほしいことを全部聞いてくれるわけではありません。どんな質問が来てもどこかで自分のセールスポイントを述べることであれば勝ちです。また、質問に対する答えは自分の経験を交えて話すと説得力も増し、自然と言葉に気持ちが込められます。学生時代に自分の経験したことや、その時感じたことをリスト化しておく、面接中に困っても自分の経験を交えた解答がしやすくなると思います。

2. 後輩の皆さんへ

教員採用試験に合格するために大切なことは2つです。一つは教員になりたいと強く思うことです。本当にあなたは教員になりたいですか？なぜ教員になりたいのですか？この問いに迷いなく答えられるかが可否を分けると思います。二つ目は、教員志望の仲間をたくさんつくることです。仲間の存在は、試験のモチベーションを高め合うことはもちろんですが、教員になってからも大きな支えとなると思います。私は仲間と教採対策をするなかで自分が教員になってやりたいこ

とがまとまってきたと感じています。人と議論を重ねていく中での新しい気づきがとても大切だと思います。最後になりますが、皆さんと一緒に教員として働けることを楽しみにしています！

教員採用試験を終えて皆さんに伝えたいこと

松村 拓己（生命科学部応用植物科学科4年）

私は、東京都教員採用試験 特別支援学校 中高 理科で受験し、合格いたしました。教員採用試験の対策について勉強法やアドバイスなどを書いていきたいと思います。少しでも皆さんの参考になれば幸いです。よろしくお願いいたします。

①一次試験に向けて：

一次試験の対策では、論文の書き方をマスターすることから始めました。先輩方の論文を読み返し、論・例・策の書き方を定着させることが必要です。まずは、先輩方の論文を参考にしながら練習してみるとよいと思います。私は、田神先生のご指導のもと論文の練習を始めて15回ほどで、論・例・策の書き方を定着させることができました。論文が苦手だという方は多いと思いますが、まずは教職課程センターに行って、論文の書き方を知しましょう。

次に、筆記試験の対策についてです。筆記試験の内容は、自治体ごとに様々です。そのため、自分が受験する自治体を早めに決めることが大切です。筆記試験と論文は、早めに対策を始めるほど合格の確率は高まります。私は、東京都で受験をしました。そのため、一般教養試験はありません。しかし、教職教養の内容が難しい傾向となっています。また、専門科目の試験もあります。私は、試験の半年前から教職教養の対策と専門科目の対策を本格的に始めました。教職教養は範囲がとても広いので、全てを網羅することは不可能です。そのため私は、幅広く重要語句を覚えられるように東京アカデミーのセサミノートを使用していました。問題を解くというよりは、ノート形式で読み返す学習を繰り返しました。これによって、教職教養の内容を少しずつ定着させることができました。その後、過去問題集に取り組み、実際に問題を解き始めました。一方、専門科目は、中学校、高校レベルの理科の基礎問題を中心に学習したうえで、過去問題集に取り組みました。専門科目で使用した教材は、東京アカデミーの中学校 理科問題集です。筆記試験の対策の注意点として、多くの問題集に手を出すのではなく、一つか二つの教材に絞って繰り返し、同じ問題を解くことが定着のカギとなります。したがって、問題集と過去問をそれぞれ最低3回は解き直すことをお勧めします。私は、過去問を5回解き直し、論文は30回以上書きました。同じ問題を繰り返すことで、もちろん正答率も高くなります。また、論文は30回も書くと、頭の中で文章が書けるようになります。そこで教員採用試験に対して自信をつけてほしいのです。

②二次試験に向けて：

私は、二次試験の対策はすべて教職課程センターで行っていただきました。田神先生のご指導の下、個人面接練習と集団討論の練習は繰り返しました。個人面接練習を通して感じたことは、自分自身の声がとても小さかったことです。面接は、練習でもとても緊張します。そのため、自分の思っているよりも声が小さくなっていることが多いです。また、緊張していることで話す内容も長くなってしまいます。面接での合格のポイントは、大きな声で、話す内容は端的でわかりやすく、自分の言葉で話すということです。また、面接官の目を見て、質問の内容に的確に短く答えることです。決して、暗記した内容をそのまま答えてはいけません。面接練習は、多くやればやるほど自分に自信がもて、緊張も少なくなっていきます。自信をもって試験に臨めるよう面接練習は何度も行ってください。

集団討論を通して感じたことは、相手の話をしっかりと聞き、相手の話した内容を否定することなく改善点を提案することの大切さです。相手が話をしている時は、相手の顔をしっかりと見ながら、深くうなずき面接官に相手の話をよく聞いていることをアピールするのです。そして、相手の内容に付け加えをしたり、改善点を話したりすることができれば、高い評価を得ることができると思います。しかし、集団討論で一番注意してもらいたいことは、問題のテーマに沿った話し合いを行うことです。グループ全体がテーマから逸れた話し合いをしてしまうと全員が不合格になってしまう可能性があります。したがって、テーマを見失わないよう注意し、話がテーマから逸れた場合には、積極的に発言して、テーマに関わる内容に話を変えていきましょう。そうすることで、面接官からも高い評価を得ることができるでしょう。集団討論の相手は敵ではありません。同じ船に乗った仲間という意識をもって試験に臨んでください。

③終わりに：

教員採用試験は、弱気になったらそこで終わりです。自信をもって取り組むことが何よりも大切なのです。また、教員採用試験は、一人では合格できません。東京都の二次試験には、個人面接、集団討論があります。そして二次試験のころには、一般企業の周りの友達や、みんな就活が終わって遊んでいる時期です。そこで、教職を目指す友達と協力し合い、時には悩みを相談して一緒に勉強することで、モチベーションを高めることができます。一人で悩まず、教職課程センターに足を運び、田神先生や先輩方、教職を目指す友達と交流しながら、論文練習、筆記試験対策、面接と集団討論の対策に励んでください。そして、教育実習でのたくさんの経験を教員採用試験に生かしてください。

是非、夢の実現に向けて最後まで諦めず全力で頑張ってください。応援しています。

教員採用試験にむけて

新田 爽介 (理工学部創生科学科 4年)

私は、神奈川県の高등학교数学の教員採用試験に合格しました。神奈川県の教員採用試験への対策や勉強方法について後輩の皆さんに参考にしていただければと思います、体験記を書かせていただきます。よろしくお願いします。

(1) 1次試験にむけて

神奈川県教員採用試験の1次試験は、教職教養・一般教養、専門教養、論文の3つがありますので、自分が行っていた取り組みを書かせていただきます。勉強法は人それぞれだと思うので、何か1つでも参考になれば幸いです。

① **教職教養・一般教養**……教職教養は「教職教養要点理解」、「教職教養演習問題」をセットで使いました。1単元終えたら確認を繰り返し、教育実習が始まる前に3回を行いました。逆算を行い、1日どのくらい進めたらよいかを考えて実行するとよいと思います。一般教養については範囲が広すぎるあまり、全ての勉強を行うことができません。そこで、単元を絞って勉強を進めるのがよいと思います。自分は、図書館で東京アカデミーの社会科学の参考書を借り、社会のみ勉強をしました。神奈川県の教職教養は1つの参考書をしっかりと勉強していれば高得点を狙えるので、しっかりと勉強を行うことが大切だと思います。

② **専門教養**……自分は、最初に神奈川県の過去問に取り組みました。そこで傾向や時間配分を理解しておくで後々の勉強に役立つかと思います。過去問を20年分ほど解き終えたら、大学受験のときに使用していた参考書を用いて、忘れていそうな分野や苦手分野の復習を行いました。専門教養は、問題数が多いので、いかに早く正確に答えを求めることができるかが大事になってくるかと思います。1問1問の配点が大きいので、計算ミスなど単純ミスをしないように心掛けましょう。

③ **論文**……教職課程センターの先生の指導に従って行いました。教育実習が終わるまでできるなら1週間に1枚を目安に書いていくとよいと思います。教育実習が始まるまでに型ができている状態にしておくでよいと思います。練習論文を高校の時の国語の先生や模試で見てもらったときも構成のところが満点だったので、指導を信じれば間違いないと思います。

(2) 2次試験にむけて

神奈川県の2次試験は模擬授業・集団討論、個人面接があります。1次試験で書いた論文が2次試験の得点になりますが、基本的に差が出ないようになっていられるらしいので、模擬授業、個人面接に力を入れるとよいと思います。

① **模擬授業**……神奈川県の2次試験では、この印象がとても大事です。配点的には、個人面接が200点と高配点になっていますが、模擬授業の印象を受けての面接なので模擬授業の

印象がよいととても面接が楽になると思います。1人の持ち時間は10分で、どれだけ授業の導入を楽しく行うことができるかが大事だと聞きました。1次試験が終わったら早めに単元を決め、準備を行い練習しましょう。

② **集団討論**……神奈川県の集団討論では、模擬授業のテーマについて答えを出さずに自由に話す方式です。これはあまり構え過ぎずに2、3回発言するとよいと思います。

③ **個人面接**……たくさんの練習を行っておくと本番のときは緊張してある程度の回答をすることができると思います。大学や友達同士、高校時代の先生、現役の先生の方など多くの人と練習を行い、アドバイスをもらうのがよいと思います。また、自分が強く話せる内容や強みなどは面接票に記入し、こちらから話を振ってもらえるようにするとよいです。自分は聞いてほしいことをあまり聞いてもらえなかったで、こちらからアピールすることが大事だと思います。

(3) まとめ

① **1次試験**……とにかく教育実習までに勉強や論文の型ができていることが理想です。教育実習中は勉強ができず、人によっては教育実習が終わった1週間後が1次試験になってしまうので、早め早めに対策を行っていきましょう。

② **2次試験**……模擬授業、個人面接をひたすら練習しましょう。模擬授業の内容は、1次試験終了後から吟味して多くの人の意見をもらい、完成度を高めていくとよりよいものができると思います。個人面接でも同様に多くの人の意見を聞き、たくさんの練習が大事だと思います。

(4) 最後に

実際に受けてみて、勉強や練習の大切さを感じました。とても大きな試験なので緊張はしますが、たくさんの練習をしていたおかげで緊張しながらもそれなりの回答をすることができたと思います。後悔しないように、これで落ちたらしょうがないと思えるほど、勉強や練習をして臨むときっといい結果になると思います。

以上私の経験を述べさせていただきました。何か参考になることが1つでもあれば幸いです。読んでいただきありがとうございます。ありがとうございました。

私立学校教員の採用について

中島 理絵 (生命科学部生命機能学科 4年)

私は、今年の春から東京都私立愛国学園中学校・高等学校で理科専任教員として働きます。情報の少ない私立教員の就活について、少しでも皆さんの参考になる点があれば幸いです。

私は元々公立の高校教員を志望していて、学部3年生の冬から神奈川県の公立教員を目指して勉強を始めていました。神奈川県は筆記試験で専門教養、教職教養、一般教養、また、二次試験での採点対象となる小論文が一次試験の日に実施されます。小論文は、型を覚えるために3年生の初めから勉強

し、教職教養や一般教養は通学時間の合間などの隙間時間に勉強をしたり、机の目の前にふせんを貼って知識の整理をしたりと勉強の癖付けを行っていました。結果としては、筆記試験で不採用となってしまう、ここから私立の教員採用を目指しました。

私が私立の教員採用試験を受けるにあたって3つの方法で応募・試験を行いました。まず初めに利用したのが、8月に行われる私学適性検査による登録です。私は神奈川県在住ですが、採用された愛国中高はこの私学適性検査の結果によってお声かけをいただきました。次に用いたものが、私学教育研究所というサイトです。こちらには各学校の求人内容が教科ごとに掲載されており、そこから学校を調べて個別に応募することができます。最後に使用したものが、神奈川県内の公立中学校・高等学校対象の教職者希望登録システムというものです。こちらは自分の履歴書になるものを書込み、教員を募集している学校からアポイントをいただくという仕組みです。こちらでも何校かアポイントがあり、実際に非常勤の採用合格をいただくことができました。

これらを用いて私立の就職活動を行ったわけですが、元々公立希望で教員を目指してきていたので、就活の始まりは遅く、11月まで就職活動を行っていました。期間としては、公立の筆記試験終了後の8月から11月末までの4か月ほどです。普通の企業の就職活動と期間的には差異がないと感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、秋に教育実習があったり、卒業研究の実験があったりと時間的には余裕がなかったので、私立の教員採用を受けている間は全く勉強をしていませんでした。今までの勉強していた知識で問題を解いたようなものです。問題の難易度は学校によってばらつきがありますが、センター試験レベルぐらいのところが多いと感じています。また、私は理科のなかでも化学を専門としていますが、私立の採用試験では化学専門の教員募集でも化学以外の物理や生物が問題で出る学校もありました。私立の教員採用は過去問が手に入らないので、公立の採用問題を解いてみたり、問題集を使用したりするのがよいと思います。

最後に、私は私立の教員採用は大変という印象を受けました。新卒や、公立出身者は内定がそう簡単にはいただけないというのも、うわさ程度ですが、耳にしたことがあります。私はそのどちらでもありませんし、試験に落ちるたび落ち込みはしました。でも、教員になりたい気持ちが強かったので就職活動を続けてよかったです。この文を読んだ方に少しでも参考になれば幸いです。

「教員採用試験の合格への道」

熊崎 透奈（経済学部国際経済学科4年）

私は東京都の中高地歴科を受け合格をいただくことができました。

私は教員採用試験一本で取り組むと決めていながら、採用

試験の対策を始めるのが非常に遅かったです。専門教養に出題される世界史の基礎知識を入れだしたのが3年生の12月。本気で取り組みだしたのが3年生の3月です。なので、約5か月もないくらいの短期集中で合格をもらえました。この5か月間はバイトはしませんでした。勉強時間は1日6・8時間行っていました。とにかく集中力があるときかしらないというルールを作って勉強に取り組んでいました。

《教職教養》

教職教養を勉強し始めたのは3年生の3月からです。主に教職教養ランナーを使って何回も読み込み、定着しているかどうかを東アカの問題集を使って復習、その後過去問で力試しをしました。今思えば東京都は傾向がかなり強いので、過去問を解いた後に必要なところだけを勉強するのも良かったのかなとも思います。ただ教職教養ランナーは最低限覚えてください。

また、東京都は教育時事の問題を好んで出すので教育時事の参考書を一冊読み込むことも大事だと思います。テスト直前で東京都教育委員会のホームページから政策を調べておくことも必須です。

《専門教養》

時間がとてなかつたので、私は日本史を全く勉強せずに、日本史以外は満点を狙う勢いで勉強しました。基本的には世界史は高校の教科書と資料集の読み込みと問題集を解きまくることをしていました。公民分野・地理分野やそれぞれセンターレベルの問題集を一冊ずつ買って何回もやりこみました。一次試験の対策の中で一番時間をかけて勉強したのが専門教養でした。←元々あった世界史の知識もほぼなかつたためほぼゼロからのスタートだったというのがあります。

《論作文》

論作文が一次試験の中では合否を分けると言われている分野だと思っています。マークがそれほどできなくても論作文ができていたら一次突破することもあるけど、マークがかなりできて論作文ができなかつたら落ちるとよく聞きます。それくらい論作文は大事です。

論作文に関しては教採独自のルールがあるのでまずはそこから学んでください。ルールを把握したら時間を計ってとりあえず書いてみるのが大事だと思います。私が気を付けていたことは、実際の学校現場を想像して書くことです。そうすることで具体性が生まれ、また、オリジナリティのある熱意がこもった文章になっていったと思います。論作文の練習は6回ほどでしたが、教職課程センターの相談員に必ず見せていました。

《教育実習中》

教育実習中は全く勉強をしませんでした。教育実習の準備期間も教採より準備に時間を費やしていたと思います。勉強したい気持ちがあってもいっぱいいっぱい本当に勉強ができなかつたです。この期間一次直前にして、勉強から離れてしまう時期なので不安になるとは思いますが、教材研究自体が

得点につながることもあるので、教育実習に専念しても良いのかなとも思います。また、二次試験の面接で教育実習から学んだことを語れないとダメなので、全力で取り組んでください。

《一次試験後の取り組み（二次対策）》

自分はあまり自信が持てず、落ちているだろうなと思いつつながら過ごしていたので二次試験の対策にすぐシフトはできませんでした。二次対策を始めたのは一次試験の合格をもらってからです。やったことは、教育時事をとにかく頭に入れ、志望動機を整理し、今までの経験がいかに教員という職業に役に立つかを経験ごとにまとめました。二次試験は言語化がとにかく大事なので、声に出して練習するに尽きると思います。また、私は市ヶ谷のキャンパスに行き直前二次対策講座を受けました。この講座が大いに合格の道へと近づけてくれたと思います。私は総じて教授は一人でこもってやっていたのですが、最後の最後におなじ目標を持つ人と面接練習や集団討論の練習をしたことは、とても緊張感のある経験だったし何よりも刺激がもらえました。

本番はすごく緊張しました。緊張してもできることは笑顔と声の大きさだと思います。そこだけ忘れずに後はやってきたことに身を任せれば大丈夫だと思います。私は、普段から先生になりたい理由やなるためにしてきた経験があり、教員になった時の自分像が自分の中にあっただけで、二次試験はそれをいかに伝えるかでした。そう考えると教員になりたい熱意がどれくらいあるかが教授突破の一番の鍵かなと思います。

《振り返り》

私は、すべてにおいて予備知識がない中、約半年間必死に勉強して突破しました。なので、ギリギリで取り組んでも遅くないです。必死になれば間に合います。しかし、やはり地歴は倍率も高く難関だと思います。この現実にも病むときもありました。この時期はすべてを犠牲にして生きた心地もしなかつたくらいです（笑）。本当に眠れなくなります（笑）。でもきっとみんな同じ気持ちを抱えています。本当にたまに、つらい時は友達につらいことを伝えることや、自分を少しだけ甘やかす時間も大事です。

あとは、集中力が大事なので眠い時は寝るとか、集中できる場所で勉強するなど環境は大事にしてください。集中できないときに勉強するのは何もプラスになりません。正直私は他の人より勉強時間で見ると少ないと感じています。その分集中力重視だったからかなとも思います。スタートが早いに越したことはありませんが、スタートが遅いからといってあきらめないでください。応援しています。

「どのような教師になりたいのか明確に」

尾崎 洸太（スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年）

私は、来年度より私立の通信制学校で高校保健体育教師として働かせていただくことになりました。ここでは、私がな

ぜ私立学校を目指し、その中でも普通学校ではなく通信制の学校を選んだのかという経緯を述べさせていただきたいと思っています。これから教師を目指す皆さんに少しでも学校選びをする際に参考にしていただければ幸いです。

1. なぜ私立教師を目指したのか

私は、3年の10月頃は公立学校の教師か私立学校の教師のどちらを目指すか悩んでいたもので、とりあえず公立の教員採用試験の対策をしていました。しかし、公立の対策をしているうちに自分は公立よりも私立の学校で自分の考えに合った場所で教師をする方がいいのではないかと思うようになりました。また、私立は異動がないことや授業を行う上での環境が充実していることなど私の中でメリットが多くあると感じたため、私立を目指すことにしました。

2. 私立の教師を目指すにあたって

私は、私立の教師を目指す決めてから私立の採用試験について調べ始めました。私立は公立とは違い、学校ごとに試験内容や時期も違い、情報も少ないため困惑していましたが、E-Staffが運営しているトップネット私学教員養成所という研修の存在を見つけ、面接に合格したため研修に参加することができるようになりました。この研修では、私立の教師を目指している大学4年もしくは修士2年の様々な教科の人たちが集まり、実際に私立学校で働いている管理職の先生を相手に面接練習をしたり模擬授業を行ったりと貴重な研修を半年ほどかけて参加することによって筆記試験以外の対策をすることができました。一番この研修に参加してよかったことは、周りに私立の教師を目指す人が少ない中で同じ志を持った人たちと意見交換をすることで切磋琢磨することができたことです。

私が経験した採用試験の内容については、書類選考、筆記試験、面接、模擬授業、実技試験です。私立の場合は、公立とは違い書類選考に通らなければ筆記試験や面接を受けることができません。なので、まずは書類選考が通るように学校研究に手を抜かずやるのが大事だと思います。

3. なぜ通信制の学校を選んだのか

私は、夢が見つからず思い悩んでいる生徒、挫折をして苦しんでいる生徒、道を踏み外しかけてしまっている生徒、夢に向かって頑張っている生徒など様々な思いを持っている生徒一人一人と寄り添い心の支えになりたいと思い教師を目指してきました。そして、学校選びでは教師と生徒の距離が近く、教師も生徒と共に成長をしていけるような学校で働きたいと思っていた。自分が働きたいと思うような学校を探している中で、通信制の学校を見つけ説明会などで話を聞いていくうちに自分のやりたい教育とマッチしていたのでここで働きたいなと思いました。正直最初は通信制の学校がどのようなものかも分かっていなくて抵抗があったのも事実です。しかし、実際にその学校の先生とお話をしたり、授業を見学していく中で普通学校と何も変わらないと感じたし、普通学校を辞めてしまって入学してくる生徒が多い中で、もう

一度頑張ろうとしている生徒たちの支えになりたいなと強く思い、ここで働くことを決心しました。

4. 最後に

私がこのような進路を選ぶことができたのは、どのような教師になりたいのかが明確であったので、周りとは違う道でも迷うことがなく突き進めたのだと思います。教師になることがゴールではありません。教師になってから生徒たちに何をしてあげられるかが大事だと思っています。なので、これから教師を目指すようとしているのであるならば公立がいい、私立がいいというざっくりと決めるのではなく、どのような教師になりたいからこの学校に行きたいと思えるように、自分のなりたい教師像は明確にしておくことが大切だと思います。

私立は採用人数が1人のことが多いので不合格の通達を何度も受け取ることだと思います。しかし、そこで不安になるのではなく自分の考えを信じて貫くことで、きっと納得のいく結果がついてくると思うので諦めずに頑張ってください。

「保健体育科教員を目指して」

木村 美緒 (スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年)

1. はじめに

私はこの度、横浜市の中予・保健体育の教員採用試験に合格し、来年度より教員として働くことになりました。幼いころから育ってきた愛着のある横浜市で、保健体育の教員として働くことが目標でした。こうして合格をご報告できることをうれしく思っています。ここまで多くの回り道をし、たくさんの迷いと困難を経てきました。私が教員になるためにどのようなことをしてきたのかお話しします。

2. 教員を目指す大学生活

教員を目指して、大学1年次より忙しく履修を組み、すべての授業に休むことなく出席しました。課題には手を抜くことなく、できる限り良いものになるよう取り組んできました。当たり前のことを当たり前になすということは簡単に思えて、実はとても難しいこと、そして一番大切なことだと考えています。こうして大学3年次ではかねてより所属していた教職ゼミのゼミ長を任されました。ここで自分の考えを分かりやすく伝える方法や、仲間を統率する方法を考え学び、仲間からの信頼を実感することが自信に繋がりました。体育や教育に関する学会や、近隣学校の学習支援などには積極的に参加し、日々教育現場のことについて考えていました。のちにこれらの経験が個人面接で活かされました。

3. 油断は禁物、不安の勝利

実は今年度の受験を決めたのは大学4年の4月でした。さらに深い理論を学びたいと大学院進学を悩んでいたためです。横浜市は人物重視であることや、教員を目指す仲間からの「まだ間に合うよ」という後押しの言葉を希望に受験を決めました。勉強を本格的に開始したのもその時期であったため、ま

さに時間との戦いでした。6月の教育実習終了後から7月の一次試験までの約1か月間、教職課程センターに毎日通い、閉館後は大学図書館へ移動して勉強しました。時間が限られているからこそ、使う教材は一分野につき1冊と決めていました。なるべく多くの参考書や問題を読み解きするよりも、1冊を何周も読み解きするほうが自分には合っていました。まず一番に始めた教職教養の問題集は、どの分野もすくなくとも5周は解きました。繰り返し解き覚えることで過去問含むその他の問題にも対応できました。専門教養についても同様、主な出題範囲である学習指導要領に何周も目を通しました。過去問を分析し、聞かれそうな部分を予想しながら直前まで何度も何度も読みました。試験対策として専門教養に触れたのは試験の1か月前を切っていましたが、ゼミや授業で学習指導案を作成する際などによく読んでいたので覚えるべき内容になじみはありました。横浜市を受験する際は早いうちから学習指導要領に目を通しておくと勉強が捗ると思います。時間的に追い詰められており、常に間に合うか不安に思う気持ちは、一切油断を生みませんでした。最後の一秒まで突き詰め、一次試験は受験者全体の1位の成績で突破することができました。

4. 自分の経験はすべて武器になる

横浜市は人物重視です。特に個人面接の割合が高く、実技の割合は1割と低めです。ここでは特に重要な個人面接について詳しく述べます。面接で聞かれることはほぼ面接シートに記入した内容についてです。これまでの困難をどう乗り越えたのか、大学生活で何を頑張ったのかなど、何も飾ることなく、自分のありのままのことをすべてお答えしました。高校である決断をしたことを話すと、当時の自分の決断をどう思っているのかと聞かれました。私は「自分の決断に自信を持っています。自信を持って今を生きています。」と真つすぐ面接官の目を見てお答えしました。どのような質問にも動じず、分からないことは聞き返す度胸を持って、そして何よりこれまで出会った人々や過ごしてきた時間に一番の誇りや自信を持って臨みました。横浜市は他の自治体とは違い、二次試験の模擬授業・集団面接・個人面接・実技試験を1日で全て実施します。真夏の猛暑日に朝から晩まで緊張状態が続き、心身ともに疲労困憊でした。試験を終えた感想は、「もう二度と受けたくない」。それほど過酷な1日でしたが、自分の全力は尽くしました。

5. さいごに

間違いなく自分一人では教員採用試験に合格することはできませんでした。私には共に教師を目指す仲間がいました。分からないことは仲間に聞き、教え合いながら勉強しました。教職課程センターの方々がいつも私たちを見守ってくださいました。それだけでなく、就活を終えた同級生に面接のノウハウを教えてもらったり、受験を経験している先輩に試験について詳しく話してもらったりしました。受験を後押しして下さった教授や仲間、親の存在がありました。自分と関わっ

てくださった全ての方のおかげで、こうして合格をいただくことができました。教採合格はゴールではなく、あくまでもこれからの教師生活のスタートラインに過ぎません。私はこれからも感謝の気持ちを忘れずに、日々勉強、努力していきます。私の経験が、少しでもお役に立てれば幸いです。皆さんと一緒に頑張りましょう。

「教員採用試験を終えて」

櫻井 洸太（スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年）

1. 勉強する環境づくり

教採合格に向けて、自分が勉強に集中できる環境を作ることが必要であり、大切なことが2つあります。

1つは、「時間の使い方」です。昨年、教採に向けて勉強に取り組もうとしたとき、合格するには最低1日10時間は勉強しなければいけないと言われました。そこで私は1日の生活を振り返ってみましたが、意外と10時間確保するのはバイトをして、しっかり7時間睡眠をしても可能であることがわかりました。しかし、いざやれるかとなると別でした。そこから私は、1日の自分の行動について指導案を書くように細かく書き、教採当日まで毎日時間を有効的に使うように努めました。

もう1つは、「ともに勉強する仲間を持つこと」です。一緒に勉強する人がいると、やらなければいけない使命感が生まれ、毎日継続して勉強することができました。これは先輩にも言われたことですが、わからないところを聞きあったり、試験についての情報を共有したりできるため、誰かと一緒に試験勉強を行うことはとても有意義であると思います。

これら2つのポイントを押さえて、これから勉強に取り組む人は頑張ってもらいたいです。

2. 採用試験について

教員採用試験というものは自治体によって日程や内容に多少の違いがあります。私は教採に関する情報を調べるのが苦手で、友達から教えられてから自分でも確認のために調べることもしかできませんでした。これから受ける人は「(自治体名)教員採用試験」で調べると良いと思います。

私は埼玉と出身県の青森県を受験したのですが、ここでは合格した埼玉県の教採について記述します。

・埼玉県教員採用試験 4月下旬 志願書提出

7月14日 1次試験 教職教養、専門教養、実技試験
(3種目)

8月10日 2次試験 集団討論、論作文、個人面接
22日 集団面接

上記のような日程で行われました。試験対策をするにあたって、いつ、どこで、何をするのかを具体的に把握し、スケジュールを立てていくことが重要であったと思います。

私は志願書を提出して以降は、親の勧めもありバイトを休んで勉強に専念することにしました。1日10時間を目標に勉

強をしながら、空き時間に友達と実技の練習をして、当日まで全集中力を試験対策に注ぎました。1次試験当日は大宮駅付近のホテルで前泊をしたのですが、いまさら学力は上がらないことを知っていたので、実力を100%以上発揮するためにその日は睡眠に全集中力を注ぎました。当日の朝は早く起きて、教採の会場に行く人でしか混んでいない電車に乗って会場に向かいました。意外と冷静でいられたことを覚えています。教員を目指す人たちは用意周到なのか開場の1時間半前だということにはほぼ全員が集合していて驚きました。私は友達がいなければ15分前くらいに行っていたでしょう。午前中に教職教養、専門教養の筆記試験を行い、午後に実技試験を行いました。当日は雨天だったため、外の競技が室内で簡略的に行われました。そのおかげで負担が減ったこともあり、とてもリラックスした状態で実技ができました。

2次試験の時も前泊し、今回は次の日に向けて自分の考えを整理することに努めました。今回は友達がいなかったのですが、前回の学びから会場になるべく早く着けるようにとても早く出発しました。おかげで電車を乗り間違えたり、乗ろうと思っていたバスが満員で次のバスに乗らなければいけなくなったりしても大丈夫でした。2次試験が人生で最も緊張したと思います。初めて体に影響が出ました。集団討論、論作文、個人面接、集団面接が行われました。集団討論では、自分は学生のため経験がありません。積極性と明るさで勝負し、発言回数と雰囲気には自信がありました。内容は自信ありませんが…。論作文はどんな内容がきても良いように1月から週1で練習し続けてきたので本番も練習通りに書くことができました。個人面接が最も緊張しました。とても詰められました。しかし笑顔は忘れず、自信がなかったり、難しい質問がきたりしても、むしろチャンスだと思い、はきはきと答えました。もちろん内容に自信はありません。集団面接は他の人の考えも聞くことができるため、良いと思った考え方は吸収して、堂々と発言することができたと思います。

長くなりましたが、教員採用試験はとても緊張します。緊張するほど学生に背負うものはないし、おこがましいものだと思います。緊張してしまふものです。緊張しても何とかなるように準備を徹底しておくことがとても重要であると思います。

3. さいごに

私が合格できた要因として、自分の持てる力をすべて出し切ることができたところにあると考えています。人生の中で1番緊張もし、自分の意志だけで勉強したのは初めてでした。教採でもなんでもそうですが、悔いのないように今持てる力を総動員して取り組み続けることが大切だと考えます。